海外レポート	**インドネシア　ジャカルタ**

自分大好きな人の国

中川　智明

今回は、ずいぶん便利になったジャカルタの公共交通の一つであるトランスジャカルタ*に乗った時に見たもの、その光景から考えたインドネシアについて記載します。

*トランスジャカルタ：ジャカルタの渋滞を解消するために整備された東南アジア初の BRT（バス高速輸送システム）で、専用走行レーンのある路線と一般車と同じレーンを走る路線がある。

＜携帯電話の待ち受け画面は・・・＞

先日、トランスジャカルタに乗った際に、ふと見た隣の人に驚きました。隣のオジサン（私もオジサンですが、更に年上のオジサンでした）が、アイドルばりのニコニコ笑顔で携帯電話を見ているのですが、それは同じくアイドルばりのニコニコ笑顔のオジサン自身が写った待ち受け画面でした。待ち受け画面のオジサンとリアルオジサンが微笑み合っているのです。私は日本の監査法人勤務をしていた時に毎日電車通勤していましたが、一度もこのような光景を見たことはありませんでしたし、むしろ日本人のオジサン（私も含めて）は、少し不機嫌に感じることが多かったです。

実はこのように、自分自身を携帯電話の待ち受けにしてその自分に向かって微笑む人を、インドネシアを含めて、タイやフィリピンで複数回見たことがあります。基本的に他人に見せない携帯電話の待ち受け画面を、偶然に見ることになり、自分待ち受けを発見したのですから、潜在的な自分待ち受け画面保有者は、これらの国には少なくないと推察します。

このような行動は、自分大好き度を象徴していると思います。日本人は、写真で自分を見たくない、と言う人も少なくないと思いますので、大きな差だと感じます。

＜垣間見える思考回路＞

なぜ、彼らは待ち受けにしているキメ顔の自分に向かってキメ返せるのか？誤解を恐れず、日々過ごすなかでの印象、独断と偏見で言わせていただくと、まず、彼らは自分が大好きです。とにかく自分に自信があり、「自分は近い将来、事業で成功して大金持ちになる！！」ぐらいのことは、当然のように思っている人が多いです。

彼らは、何か問題が起こっても、その原因が自分にあるはずはないと考え、徹底的に他人の責任であることを主張します。自分に自信があるので、自分は悪くないと考え、反省や自分を振り返ることはありません。ですから「反省しつつ向上する、または改善する」という行動をする人は多くないと感じます。

一方で、良い面もあります。自分に自信があるので、いろいろな意味で余裕があり、おおらかで優しい人が多いのも事実です。笑顔が基本ですから、他人に対しても優しく良い印象です。

＜教育の違い＞

なぜこうも考え方が違うのか、と考えると、やはり教育の差が大きいと感じます。公共の場で子どもが大騒ぎしようが、バスの椅子の上に靴で上がろうが、親は日本人ほど子どもを叱りません。とにかくかわいがり、「厳しさが親心」のような発想は全くありません。ですから、日系企業などで「厳しいのが上司の優しさ」という日本的考え方で指導をする日本人がいると、彼らはとても驚き、場合によっては次の日に退職してしまうこともあったりします。

＜幸せな日々を生きるには＞

厳しさがなければ、反省して向上することができず、精密なモノづくりや本当のプロの仕事は難しいと思います。でも彼らは、「自分はすごい能力を持っているから、怒られるはずがない」と信じていますので、怒られてもそこまで響かない、強い（鈍感な）心があるのです。日本人の私からすると、彼らはかなり自己肯定感が高いように感じます。

彼らは自分が好きで、自分に自信を持って、幸せな日々を生きているのです。

【渋滞の中のトランスジャカルタとその停留所】